

今冬のインフルエンザ

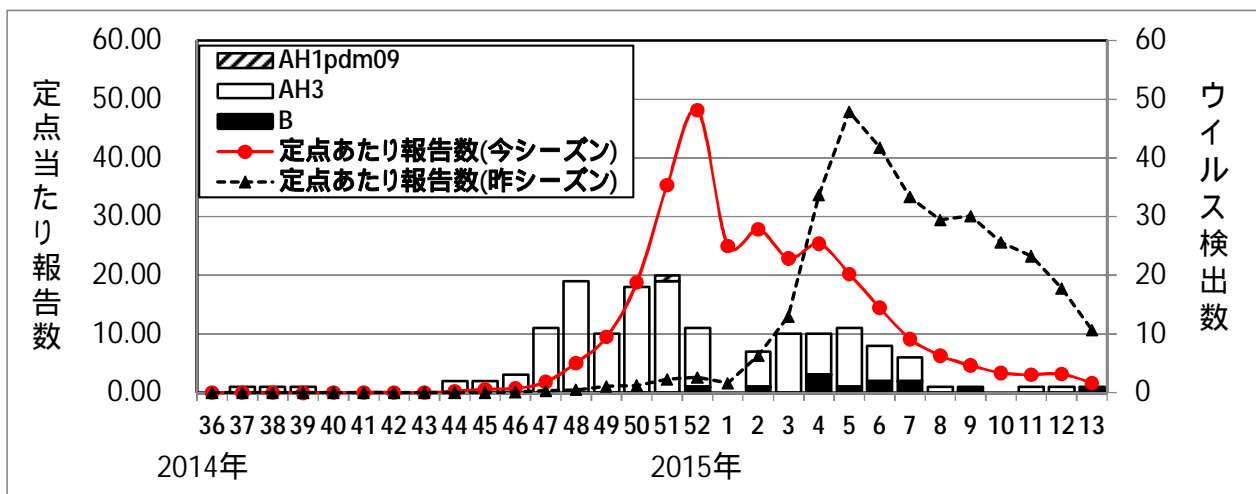
(1) 定点当たり報告数の推移

今シーズンのインフルエンザは、昨シーズンより 1 か月ほど早く本格的な流行を迎えました。定点当たり報告患者数は 2014 年第 49 週から急上昇し、第 52 週に 48.13 に達してピークとなりました(下図参照)。2015 年第 1 週以降は報告数が減少し、第 7 週には 9.16 となり、今シーズンの流行は終息に向かいつつある状況です。

(2) ウイルス検出状況

2014 年第 36 週から 2015 年第 13 週までに、埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターで検出されたウイルスは、AH1pdm09 が 1 件、A 香港(AH3)型が 143 件、B 型が 12 件です。今シーズンの流行の主体は AH3 型であり(下図)、B 型は 2015 年に入ってから散発的に検出されていますが、昨シーズンより少ない検出数です。AH1pdm は昨シーズン最も多く検出されましたが、今シーズンの検出数は非常に少なく、これは全国的にも同様の傾向です。

インフルエンザウイルス検出状況及び定点当たり報告数(埼玉県)



(3) 抗インフルエンザ薬耐性ウイルスについて

国立感染症研究所において、2015 年 3 月 27 日までに全国で分離されたウイルスのうち、AH1pdm09 の 18 株、AH3 の 212 株、及び B 型の 44 株について、抗インフルエンザ薬(オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、及びラニナミビル)に対する耐性の有無を調べたところ、耐性を示すウイルスは検出されませんでした。

病原体定点の先生方には、引き続き検体採取の御協力をよろしくお願いいたします。
インフルエンザに関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症疫学センターのホームページ(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>)でご覧になれます。